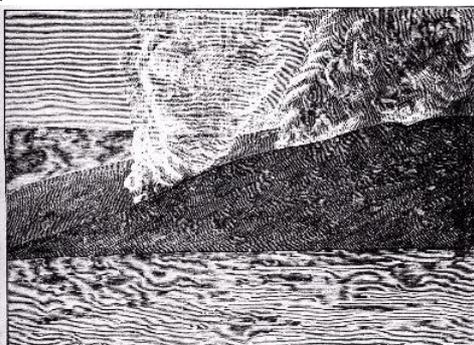




美しい国の遺伝子 を探る・・・講演会



景色



風景



煙噴ノ出雲音
(盛歌ノ望嶺嶺嶺)
「扇シヤ影陰ツ製ノ岩華次宗道ニ土學道ルヨノ崎ニノ爲ノ學原上山ノ此」

景観



「けしき」と「風景」と「景観」という言葉について調べてみました。「けしき」は平安時代初期に和語化して、ひらがなで用いられていました。中国から入ってきた当初は、「気色」で、「景色」が用いられるようになったのは近世以降とされています。「風景」も中国から入ってきましたが、一般に流布したのは明治以降と考えられます。明治の『日本風景論』が「風景」を一般化させたのではないかと、私は考えています。古語辞典を引いても風景は出てきませんが、「けしき」は最重要語として出ています。「景観」はLandshaft、landscapeの翻訳語として登場したもので、一番新しい言葉です。困みにこの「景観」や「環境」という言葉は中国でも使われていますが、これは日本から中国に輸出されたものです。日本人にとっての景色の歴史は、どんなものであったのか、ということに興味をもって整理を進めてきました。日本人にとってどんな景色があったのか、これからどうしていくべきかについて考えてみたいと思います。

樋口忠彦

テーマ 「景色と景色づくりについて考える」

講演者 樋口 忠彦 氏 (広島工業大学環境学部教授)

日時 2007年7月28日(土) 15:00~17:00

場所 広島市まちづくり市民交流プラザマルチメディアスタジオ
袋町小学校敷地内 広島市中区袋町6番36号 TEL 082(545)3911

参加 無料

主催 都市計画学会中国四国支部(企画・研究委員会)

後援 日本建築学会中国支部、土木学会中国支部、広島県建築士会

申し込み 支部企画・研究委員会佐伯あて7月17日までに Email t-saiki@fukken.co.jp



■樋口忠彦氏 略歴

1944年埼玉県生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学研究科博士課程単位取得退学。新潟大学工学部建設学科教授、京都大学大学院都市環境工学専攻景域環境計画学教授を経て、現在、広島工業大学環境学部教授。都市計画学会石川賞、サントリー学芸賞、土木学会著作賞、建築学会賞(業績)などを受賞。著書に「景観の構造」「日本の景観」「郊外の風景」「都市のデザイン(共著)」など